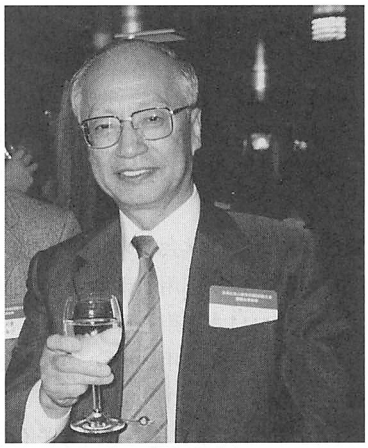
Japanese Journal of Applied Psychology
2015, Vol. 41, No. 2, 219–220

追悼：奥澤良雄先生

理事長　藤田主一



奥澤良雄先生

日本応用心理学会名誉会員の奥澤良雄先生が，平成27年1月29日にご逝去されました。享年90（満89歳）でした。ここに本学会を代表して，奥澤先生のご経歴等をおまとめし，追悼を捧げたいと思います。

奥澤先生は，大正14年4月22日にお生まれになりました。昭和26年3月に東京文理科大学教育学部心理学専攻を卒業され，同月に法務技官として採用，横浜少年鑑別所鑑別課にご勤務されました。以後，一貫して法務省の矯正施設において受刑者等と向き合う仕事に従事してこられました。昭和29年に府中刑務所分類係長，昭和33年に静岡少年鑑別所鑑別課長，昭和34年に小菅刑務所技官，矯正局併任，昭和37年に矯正局医療分類課分類係長，昭和40年小菅刑務所矯正専門職，この間，昭和40年8月から1年間，フルブライト研究員として南イリノイ大学，カリフォルニアへ派遣，昭和43年に秋田少年鑑別所所長，昭和45年に矯正研修所名古屋支所教官（教頭），昭和49年に法務総合研究所室長研究官，同年に国家公務員採用上級試験専門委員併任，昭和50年に法務総合研究所主任研究官，同年に法制審議会幹事（少年法部会）併任，昭和55年に前橋少年鑑別所所長等を経て，昭和56年に法務省を退職されました。戦後，本学会は4部会制度（産業，教育，臨床，犯罪）を設けていました。奥澤先生は犯罪部会でも活動されましたが，昭和36年に相談部会が増設されるときには，運営委員として加わっておられます。

法務省を退職後，昭和56年に埼玉県立衛生短期大学教授に就任，その後，筑波大学，早稲田大学，静岡大学，大妻女子大学等の非常勤講師を併任されました。昭和59年4月から大妻女子大学教授に就任し，退職される平成10年3月まで同大学教授として学生指導や種々の役職に従事されました。学会関係では，日本応用心理学会，日本犯罪心理学会，日本矯正医学会，日本矯正教育学会，財団法人更新会，日本心理学会等で活動され，とくに本学会では運営委員，常任運営委委員として長く学会の中枢で活躍されました。これ以外にも，臨床心理士として東京都スクール・カウンセラー，関東医療少年院・府中刑務所の篤志面接委員，同全国連盟役員等を歴任されております。

奥澤先生の著書・論文・学会発表は非常に多く，列記することが難しいほど膨大な数に及びます。かつて，先生が秋田少年鑑別所におられたころ，『随想あきた（77号）』(1968) のなかで，アメリカの矯正について事例を挙げながら「一口にいって，アメリカの矯正は，よく地域社会の協力，理解を得ている。受刑者はいずれ社会へ帰ってくる。彼らの正しい社会観を収容中に養っておかねばならないし，そのためには社会は彼らの教育に積極的でなければならない。こうした考えが社会一般に普及しているのを私はさまざまな経験を通じて知ったのであり，それは私にとって驚きでもあり羨望の限りでもあった」と述べられ，これは先生の認識を垣間見る思いでした。本学会発行『応用心理学研究別冊：日本応用心理学会史』(1998) のなかで，先生は「今日の大学教育，いや，我が国教育制度全体の危機や問題が言われる中で，本来の一般教育に期待されている教育のあり方を部会の仲間たちとともに考えさせられてきた。そしてその時にいつも思うのが，応用心理学と一般教育の視点の共通性である…（中略）…教育に携わる多くの先生がひとしく一般教育学会に属

されること，同時に，心理学各分野の先生方が応用心理学会に所属されることを期待している」と述べられています。また，本学会広報誌『応用心理学のクロスロード Vol. 2』(2011) のなかでは，「戦後間もない頃の大学での心理学には，期待を満たされない思いを抱かされることも少なくなかった。心理学科は哲学科や教育学科，生物学科に属していたりで，この学問の本質に苦しむことが多かったなかで，比較的わかりやすかったのが応用心理学という語だった…（中略）…応用心理学はそのような社会的責務を担っているものである」と述べておられます。いずれも，応用心理学の実践で活躍されていた先生ならではの大変重みある文章と思います。

最後に，少しく個人的になりますが，本学会第 66 回大会（1999，東京国際大学）において，「最近の子どもをいかに理解するか」というワークショップが企画され，シンポジストの一人として奥澤先生と同席させていただいたことを誇りに思っています。先生と最後にお会いしたのは，本学会第 77 回大会（2010，京都大学）の懇親会会場にご家族とお見えになられたときでした。なお，先生のお写真は，本学会第 56 回大会（1989，福岡教育大学）のときに先生とツーショットで撮らせていただいたものです。光栄の極みです。

奥澤先生の本学会へのご貢献に心から感謝申し上げるとともに，謹んで哀悼の意を表します。　合掌

■日本応用心理学会での活動

1978 年　日本応用心理学会常任運営委員（現常任理事）
1993 年　日本応用心理学会運営委員（現理事）
1994 年　日本応用心理学会名誉会員

■主要著書

1975 年　『児童発達の心理学』（共著）　学苑社
1978 年　『新講犯罪学』（共著）　青林書院
1981 年　『教育心理学』（共著）　協同出版
1983 年　『心理学十三章』（共著）　前野書店
1983 年　『非行の克服』（共著）　教育出版
1984 年　『こころのサイエンス』（共著）　学術図書出版社
1985 年　『教師学：効果的な教師＝生徒関係の確立』（共訳）　小学館

■主要論文

1958 年　累犯受刑者の諸特性―類型的研究の提案　矯正医学，**7**(1).
1961 年　矯正施設におけるカウンセリングについて　刑政，**72**(10).
1973 年　矯正施設におけるホスピタリズム　教育と医学，**21**(2).
1975 年　社会変動指標による地域別犯罪率の推定　犯罪と非行，**25**.
1978 年　薬物乱用の社会的背景　犯罪と非行，**36**.
1980 年　非行少年に対する類型別処遇に関する研究について　刑政，**91**(7).
1981 年　少年の覚せい剤・麻薬の乱用をめぐって―A 子の事例を中心に　犯罪と非行，**49**.
1982 年　非行少年に見る親―本当の愛情を求める子どもたち　児童心理，**36**(3).
1988 年　教師の見る「よい子」　教育心理，**36**(3).